

info.

- ・学校教育課（役場内・☎ 23 - 2689）
- ・社会教育課（役場内・☎ 22 - 3834）
- ・子ども未来課（ゆとろ内・☎ 23 - 3024）

令和5年度保育施設 利用二次募集受付中

4月から保育施設の利用を希望される方は「教育・保育給付認定」と「入所申込」の手続きが必要です。詳しくは町HPをご覧ください。か、問合せください。

▼二次募集期限 1月31日(火)

▼問合せ

- ・子ども未来課子ども係
（ゆとろ内・☎ 23 - 3024）
- ・認定こども園おとぎのくに
（☎ 26 - 2353）
- ・認定こども園当別夢の国幼稚園
（☎ 23 - 2381）

図書館企画第27弾！

①芥川賞・直木賞特集

in 当別町図書館

過去から現在までの受賞作品を読んでみませんか？

②おうちであったか冬ごもり

in 西当別分館

冬は寒いけれど、お家の中で読書であったまろう！

▼展示 1月29日(日)まで

▼問合せ

当別町図書館（☎ 23 - 0573）



当別町図書館【児童書】

- ・「おばけのかわをむいたら」
たなか ひかる
- ・「頭がよくなるインプット どん
どん知識がふえる！」 齋藤 孝

西当別分館【一般書】

- ・「新！店長がバカすぎて」
早見 和真
- ・「いけない(2)」 道尾 秀介

▼問合せ

当別町図書館（☎ 23 - 0573）

とうべつ学園の生徒がボラン ティア活動を行いました



とうべつ学園児童生徒会の生徒5人が、スーパーアークス当別店で「赤い羽根共同募金」の街頭募金を行いました。最初は募金への協力の呼びかけに緊張をしていた様子でしたが、時間が経つにつれ緊張の糸がほどけ、買い物客に大きな声で呼びかけるようになり、募金をしてもらった喜び笑顔で元気づく「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えていました。

車いす体験を行いました



当別町社会福祉協議会の福祉教育の一環で、西当別小学校の5・6年生の児童を対象に車いす体験が行われました。体験では2人1組となり、乗り手と介助者で役割を分担。車いすに乗降する際の手順から、使い終わった後のたたみ方、マットで造られた段差を乗り越えるための操作方法など専門的な知識を学びました。授業の最後には質疑応答が行われ、児童は「坂道・雪道はどのように操作するのか」など使用する場面を想像しながら質問をしていました。

5年生がふれあいバスの 車内アナウンスに挑戦



とうべつ学園および西当別小学校の5年生が、4月以降にふれあいバスの車内アナウンスで使用される音声を録音。中には長い文章で読むのに苦戦した児童もいましたが、本番では緊張しながらも最後までしっかりと読み上げていました。アナウンスに挑戦した児童は「緊張したけど楽しかった。囁んじやいそうだったけど上手くできた」と満足そうに話していました。

認知症の症状を理解して サポートの仕方を学びました



西当別小学校の5・6年生の児童を対象に、認知症サポーター養成講座が行われました。講座では認知症ともの忘れの違いや認知症の方へのサポートの仕方をクイズ形式で出題しながら説明。今後の認知症の方への対応についての質問に、児童は「厳しくしないで、優しい目で見守る。忘れても広い心を持つ」と回答していました。講師は「認知症の方へは自分ができるサポートをする。介護をしている家族にもねぎらいの言葉を」と話していました。

とらべつ

歴史余話

第25回道の駅は「まちの顔」

北海道には道の駅が127(2022年2月)あると言います。道内で最初にできたのは1993年。30年の歴史があることとなります。2017年に開業した当別町の「北欧の風 道の駅とらべつ」は119番目でした。

それぞれの地域で賑わいを見せている道の駅ですが、個性化が進んでいるようです。今や道の駅はドライブの休憩や地元グルメに加え、そのまちの農産物・海産物といった特産品が買え、さらにその地域の歴史や文化、娯楽(たとえば温泉)を体感できる施設もあります。

そうした個性はネーミングや施設の外観・内観・構造にも表れています。道の駅とらべつは「北欧の風」が象徴するように、北欧のイメージを打ち出し、建物の外観・内観にもそれを表しました。スウェーデンヒルズを擁する当別町ならではの、他では真似のできない個性と言えます。

多くの人々が利用する道の駅では、こうした個性が「まちの顔」になると言ってもいいでしょう。かつては鉄道の駅がそうした役割を担っていた地域もありましたが、モータリゼーションの進展を背景に、一部を除いてその役割は道の駅に引き継がれているようです。

また道の駅は休憩や買い物だけではなく、地域の交流の場、あるいは他地域との交流や連携の場

としても機能しています。当別町ではスウェーデンのレクサンド市、宮城県大崎市、愛媛県宇和島市、北海道伊達市と姉妹都市などの交流があり、イベントなどでこうした他都市の特産品や文化、人々に触れられます。それは当別町の歴史や交流の豊かさ・多様性を、訪れた人々に発信することにもつながります。つまり道の駅とらべつは、まちの情報発信の役割も担っています。

こう考えると、歴史的にはまだ浅い道の駅ですが、まちのブランド力にとって重要な役割を担っていると考えられます。経済効果ももちろんですが、道の駅の歴史が「まちの歴史」の一部として不可欠になっていくであろうことを念頭に、新しい町史に「北欧の風 道の駅とらべつ」の意義や活動の記録を盛り込んでいけたらと考えています。



スウェーデン王国レクサンド市訪問団による演奏会。姉妹都市交流30周年を記念して道の駅で開催された。

新当別町史編集担当

伊藤 哲也